



外観(昭和3年建築)



正面玄関



常設展示室(現在は「神農展」)

杏雨書屋

きょうう
う
しよ
おく

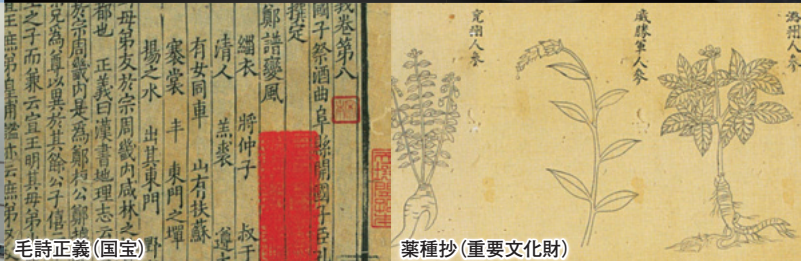
ニュース

わが国を代表する医学・薬学古典書の図書資料館

改装移転



神農像(小野家旧蔵)



毛詩正義(国宝)

薬種抄(重要文化財)

「薬の町」大阪道修町に改装移転

本誌、小曾戸洋先生による連載でもおなじみの「杏雨書屋」が武田科学振興財団の設立50周年を迎えた2013年、武田薬品旧本社ビル(大阪市中央区道修町)へ移転しました。今回の移転は、杏雨書屋の図書資料の増加に伴って収納スペースが手狭となり、書庫の建て増しが検討されていた矢先の時宜を得た移転でした。昭和3年に建造されたレンガ造りの建物には、当時の建築様式が随所にみられます。外観のみならず建物内にも趣が残る一方、最新設備で運用する全自動化書庫が新設されるなど、大切に伝承されてきた貴重な収蔵品が新しい技術で保存され、未来へ受け継がれています。

医学・薬学の原点となる古典籍等の管理・保全

杏雨書屋は、武田薬品創業家の五代武田長兵衛(和敬翁)が、関東大震災で多くの貴重な古典書物が失われてしまったことを悔やみ、私財を投じて東洋の古医書を中心に和漢の善本を収集して社会のために役立てようとしたことから始まりました。この事業は六代長兵衛に引き継がれ、昭和52年、これらの資料が武田科学振興財団に寄贈され翌年公開となり、今日に至ります。現在の蔵書は医書や本草書を中心に、医学史、博物学、科学技術史などの広い分野におよび、国宝3点、本誌473号でも取り上げた「薬種抄」をはじめとする重要文化財13点、重要美術品3点を含む書籍約4万点、15万冊を収蔵。わが国の医学、薬学古典書の収集と管理において他を圧倒する規模を誇っています。

展示室の一般公開を開始

移転先の道修町は江戸時代から薬の街として栄え、近くには薬の神様を祀る少彦名神社があります。医薬の分野では古来より伏羲、神農、黄帝を三皇と称し、神農は薬の創始者として崇拝されてきました。新書屋の移転を機に開始された展示室の一般公開では、財団設立50周年記念として杏雨書屋が保有する神農像の逸品を選んだ常設展示「神農展」が2014年3月28日まで開催中のほか、毎年、春と秋に開催されていた特別展示も引き続き実施される予定です。



公益財団法人
武田科学振興財団
Takeda Science Foundation

〒541-0045
大阪市中央区道修町二丁目3番6号
06-6233-6108(杏雨書屋)

URL <http://www.takeda-sci.or.jp/>
展示室 午前10時～午後4時
開館時間 土・日・祝祭日・年末年始 休館 入場無料